会派間確認事項様式②

出張報告書

令和1年11月11日

市議会議長　　米田　貴志様

会　派　名　　公明党

代表者氏名　　友永修

下記のとおり報告します。

記

1　目　　的　　全国都市問題会議への出席

2　出　張　先　　鹿児島県霧島市国分体育館

3　出張期間　　令和1年11月7日（木）～令和1年11月8日（金）

4　出張者氏名　南加代子・米田貴志・岩﨑雅秋・友永修

5　てん末報告　別紙の通り

公明党（会派）行政視察レポート

報告者	岩﨑雅秋

視察先	霧島市	テーマ	防災とコミュニティ
日　時	令和元年11月7日・8日　（全国都市問題会議）		

参加者：米田貴志・南加代子・友永修・岩﨑　雅秋

●市政の課題の解決に向けて、参考になると思われることと考察について

〇一般報告の田中重好先生の中で避難をうながすためには、「あなたの命が危険だから逃げてください」と呼びかけるよりも、「あなたが逃げないと、周りの人や消防団の人に迷惑をかけますよ」と呼びかけた方が効果的との指摘は参考になりました。

〇広島市長の一般報告で思った事は、一刻も早い生活再建に向けた取組として以前は罹災証明の被害認定調査をする税務部署の職員も避難所の運営に従事していたが、平成30年7月豪雨災害の時は初期段階から認定調査に専任させたことにより平成26年8月豪雨の時よりも8日も早く被害認定調査をスタートすることができたとの事でした。また、復旧にあたっては、単に原状に戻すということではなく、改良復旧に主眼をおき、住民が安心してその地域に住み続けられるよう取り組むこと、そして、地域の話を聴くと、様々な要望が寄せられてきて動きがとれなくなるのではないかと心配する人もいますが、話を聴いた方が、実際に対応するときに物事がスムーズにいく。自分たちがお願いしたことであれば、地域は協力を惜しみません。とあり、二度の大災害を経験した市長の貴重な報告でした。

〇パネルディスカッションで興味深かったのは、「あるものを使う」考え方である。例えば、土手の花見である。これは川の土手に桜が植えられていて街の名所になっているところも多く、春先には花見が行われている。冬に土中の氷結で緩んだ堤防を踏み固め、梅雨の増水に備える防災上の工夫といわれる。また、あたり一帯がマンション化している地域では停電してエレベーターも停まり、水も上がってこない高層マンションに居住する高齢者に声かけして回る学生・生徒が期待されている。このように市民と行政の信頼関係・協力関係をつくることが大事であり、連携の手がかりは身近、日常、あるもの、人と人である。